

園長先生の赤烏帽子

北海道函館市・ききょう幼稚園「先生たちからのプレゼント」

お誕生日はリッチにリムジン

園長先生の運転で街を走る



園庭の車道に停車中のリムジン。後方の建物が園舎の一部。

キャデラックリムジンの前でベトナム国旗柄のTシャツを着ているこの人が川村兼悦郎理事長&園長である。ダジャレが得意で料理も得意、動物が好きで外国人も好き。そしてもうひとつ、乗り物が大好きだ。園庭には青函

トンネルを走った海峡

ドラえもん列車、函館～室蘭～札幌～旭川を結んだ夢の特急ライラック号らが何両も並び、特大の消防はしご車、クラシック消防車が動き回る。磯船は砂場に変身し、預かり保育のログハウスが建つ前はクルーザーもあった。さながら交通博物館の趣である。

一時期、川村先生は「日本人のほとんどはロールスロイスに乗ったことがないまま人生を終える。できればうちの園の子ども達には『幼稚園のときに乗ったことがある』という思い出を持たせてやりたい」と真剣に考え中古のロールスロイスを探した。しかし中古でも手が届かなかった。そんなとき、神戸に住む画家が、サウジアラビアの王族との間で自分の絵とロールスロイスを物々交換した話を聞き、「函館まで遊びに来ませんか」と連絡した。

画家はやってきた。そして列車に絵を描くかたわら子どもたちをロールスロイスに乗せて街を走ってくれた。しかし乗れたのはその時の園児だけで、川村園長には一抹の寂しさが残った。

そんな園長先生のため、先生方はお金を出し合って誕生日プレゼントに道南ハイヤーが行う「高級リムジンで回る函館ナイトドライブ」をプレゼントした。結婚式で新郎新婦を乗せるリムジンを夜も活用しようという企画だった。高級リムジンには高級洋酒が付き物で、飲み放題のお酒とオードブルが用意されていた。川村先生はお酒を飲まな

シートは総革張り▶



い。それでも持参のウーロン茶を飲みながら、この豪華プレゼントに酔いしれた。

翌日、熊谷和可佐教頭が道南ハイヤー社に支払いに出向くと、園長先生が乗ったリムジンの隣にもう1台リムジンがあった。「函館に1台しかないと聞いたのに、これはどうしたのか」と訊くと、15年間使った前のリムジンが車検時期になったので新しいのに買い換えたとのこと。

「じゃ、古いリムジンはどうするんですか？」とさらに訊くと、「今日で車検が切れるので廃車処分にします」という。閃いた熊谷教頭、「うちの園長先生、こういうの大好きなんです。廃車にするんだったら譲ってもらえませんか」と言ってみた。「いいですけど、車検を取り直すのに30万円くらいかかりますよ」との返事だった。

川村園長に電話すると、「それはいい。車検代は何とか工面する。すぐにもらって運転して帰って来い」とOKが出た。しかしこの長い自動車を運転するのはむずかしく、後日、車検を新しくして同社の運転手さんが「私が15年間乗った車です。どうか大事にしてください」と持ってきてくれた。

1993年式のキャデラックは全長約8メートル、幅約2メートル。内装は総革張りでテレビ、飾り棚などが付いている。園長先生の誕生日が縁結びとなったこのリムジン、幼稚園での出番も毎月のお誕生会。お誕生の子どもたちを乗せて函館を一周する。運転するのは園長先生。



園長を支えるベテラン教師。右から二人目が熊谷和可佐教頭、左端が黒澤鈴奈主任。合わせて黒熊。

「ほら、あそこのうどん屋、旨いんだ。うどんを食べる時は何ていうか知ってるかい」「いただきます、でしょ」「違う。ヨ～イ、うどんって言うんだ」「ズルッ」というダジャレ観光ガイドを聞きながら、子ども達は年に1度、リッチな気分を満喫している。

【記・片岡 進】



【左】アフタースクール(学童保育)送迎用のクラシック消防車。【右】最近まで小樽市消防局で使われていたはしご車。